

北高木遺跡発掘調査報告(2)

—企業団地造成事業に伴う埋蔵文化財調査—

2007年

富山県射水市教育委員会



5号清出土墨書土器（平安時代）



木製祭祀具（平安時代）

北高木遺跡発掘調査報告(2)

—企業団地造成事業に伴う埋蔵文化財調査—

2007年

富山県射水市教育委員会

序

射水市は富山県のほぼ中央に位置し、北は富山湾に面し、中央部には低平な射水平野が広がり、南部は緑豊かな射水丘陵が連なる自然環境に恵まれた都市であります。

この報告書は、大島企業団地造成事業に伴う北高木遺跡の発掘調査報告であります。この遺跡は、過去の調査より奈良時代末期から平安時代前期の荘園関連施設や祭祀場の存在が示唆されていました。今回の調査でも同時期の河川跡より墨書土器「高」や斎串などが出土し、古代祭祀の形態が確認され貴重な資料をもたらす結果となりました。

発掘調査で得られたこれらの資料や本書が、埋蔵文化財の理解や認識を深める契機となり、地域の歴史資料として広く普及活用されることを期待しています。

終わりに、現地調査及び報告書刊行に際し、ご理解・ご協力を賜りました関係各位に衷心より感謝申し上げます。今後とも、埋蔵文化財行政への一層のご協力・ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

平成19年3月

射水市教育委員会

教育長 竹内伸

例 言

- 1 本書は富山県射水市北高木地内に所在する北高木遺跡の発掘調査報告である。
- 2 調査は企業団地造成に先立ち、射水市企業立地推進班の依頼を受け射水市教育委員会が実施した。
- 3 発掘区の地番・現地調査期間及び面積は次のとおりである。
北高木471番地 外1筆 平成18年5月1日～6月16日 発掘面積 420m²
- 4 調査事務局は射水市教育委員会文化課に置き、文化財係長松下勝彦・主任田中明が調査事務を担当し、課長川口武治が総括した。また、現地調査、本書の執筆・編集は田中が担当した。
- 5 遺物図版掲載写真は、西大寺フォト（杉本和樹氏）に撮影委託した成果品を使用した。
- 6 発掘調査及び遺物整理の従事者は次のとおりである。（五十音順）
【現地調査】 坂下将行・澤井留雄・関沢薫子・瀧田茂治・旅 政雄・花崎みよ・林 栄一
堀田よし子・前田尊憲・松長豊秋・宮原諒一・宮林正信・宮脇ちえ子・森田美和子
山崎祝三・吉田 剛
【整理作業】 吉島正喜・開 一美・堀壘実津子・吉沢泰子
- 7 調査で得た図面・写真・遺物は射水市教育委員会で保管し、出土遺物には遺跡名を次の略号で記入している。北高木遺跡：OKT18

凡 例

- 1 本書に掲載の遺構図の方位は真北、水平基準は海拔高である。
- 2 遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。SD：溝 SK：土坑
- 3 遺構平面図の縮尺は1/400、遺構断面図の縮尺は1/80、遺物実測図の縮尺は土器の1/3を基本とし、縮尺の異なる遺物についてはそれぞれのスケールとともにその縮尺を表記した。
- 4 本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に準拠している。
- 5 調査区の座標（世界測地系）は次のとおりである。X40 Y4 = X82368.621 Y-8218.768
- 6 遺物実測図中の土器断面の表現は次のとおりとした。
■：須恵器 ■■：黒色処理 ■■■：赤彩処理 □：煤

目 次

第1章 遺跡の位置と歴史的環境	1
第2章 調査に至る経緯	3
第3章 調査の概要	4
第4章 自然科学分析	15
第5章 考 察	18

卷首図版目次

卷首図版1 5号溝出土器書土器（平安時代）

卷首図版2 木製祭祀具（平安時代）

挿図目次

第1図	射水市の位置	1
第2図	遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第3図	調査地位置図	3
第4図	基本層序模式図	4
第5図	遺構実測図	5
第6図	遺構断面図	6
第7図	遺物実測図 [土器] SD05	7
第8図	遺物実測図 [土器] SD05	8
第9図	遺物実測図 [土器] SD05	9
第10図	遺物実測図 [土器] SD05 SD06	10
第11図	遺物実測図 [土器] SD06	11
第12図	遺物実測図 [木製品] SD05 SD06	12
第13図	遺物実測図 [木製品] SD05 SD06	13
第14図	遺物実測図 [木製品] SD05 SD06	14
第15図	遺構実測全体図	18
第16図	古代荘園現地比定案図	18

表目次

第1表	木製品樹種同定表	17
第2表	古代北高木遺跡年表	21
第3表	出土遺物観察表（1～50）	22
第4表	出土遺物観察表（51～100）	23
第5表	出土遺物観察表（101～143）	24

図版目次

図版1	遺構全景・溝	SD05
図版2	溝・土坑・出土状況・作業風景	SD05 SD06 SK01 SK03
図版3	出土遺物 [土器]	
図版4	出土遺物 [土器]	
図版5	出土遺物 [木製品]	
図版6	出土遺物 [木製品]	
図版7	出土遺物 [木製品]	

第1章 遺跡の位置と歴史的環境

射水市は富山県のはば中央に位置し、東は富山市、西は高岡市、南は砺波市に隣接している。市域は東西約11km、南北約15kmで総面積109.18km²である。北部に富山湾、中央に射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高0~140mを測る。富山市・高岡市と隣接し、交通の便にも恵まれていることから、住宅団地の造成が頻繁に行われ、ベッドタウン化が進んでいる。現在の人口は約9万5千人余りである。

射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11km、南北約7kmの範囲の低湿地帯である。およそ1万~8千年前



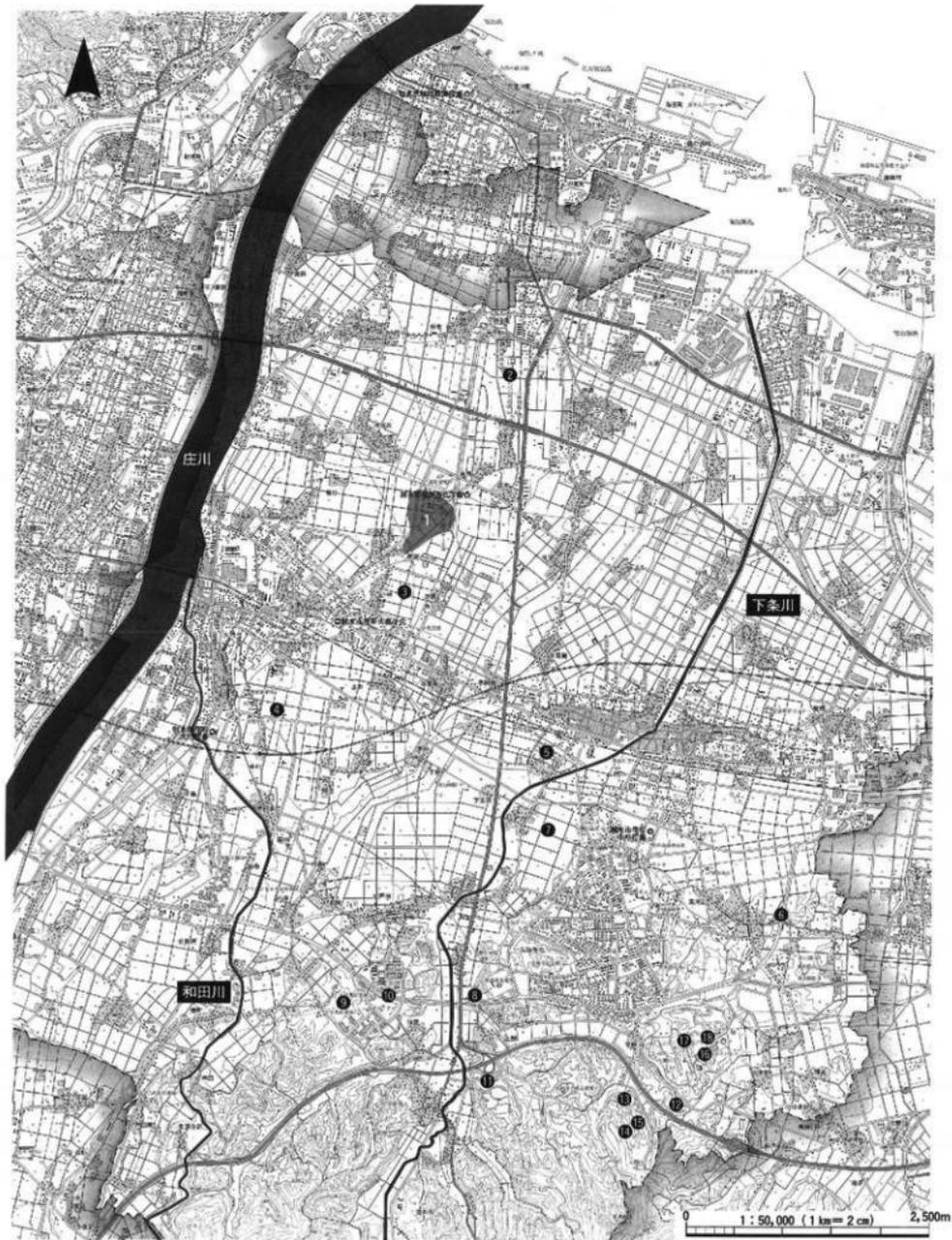
第1図 射水市の位置

に形成された複合扇状地性三角州沖積平野で、河川によって運ばれた土砂や粘土・礫が堆積している。この沖積層が堆積した時代は海岸線が沖へ後退して平野部は現在より広がったとみられ、その後は縄文海進とよばれる気候変化と海面上昇により、海岸線が陸へ進行して平野部が狭まり、現地形で標高約5m以下は海面下に没することになる。やがて気候の寒冷化による海面後退、河川の土砂が堆積することでかつての海は小さく放生津潟(現:富山新港)としてのみ形を残し、周辺に湿原が現れる。この湿原は放生津潟の水面と標高差が殆どないため、河川の流が氾濫地を形成、湿原の植物が枯れて泥炭が堆積し、平野部が開けていくことになる。また、射水丘陵は新生代第三紀の青井谷泥岩層を基盤とし、上層に礫と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火砕岩層が堆積している。鍛冶川・下条川・和田川やその支流によって河岸段丘や樹枝状の谷間が形成されている。このような自然環境のなかで、先人達は生活の場を求めながら集落を形成していったものと考えられる。現在、市内には460箇所以上の遺跡が密集しており、平野部に集落遺跡、丘陵部に生産遺跡の立地が多く確認されている。

丘陵部では国指定史跡の小杉丸山遺跡、小杉流通業務団地内遺跡、上野南遺跡、石太郎 G~J 遺跡、赤坂 A~D 遺跡など生産遺跡が集中している。これらの遺跡は須恵器窯跡約39遺跡、製鉄遺跡約147遺跡を数えており県内最大規模を有する。いずれも須恵器生産窯跡や鉄生産製鉄炉と炭窯、工人の住居や作業場が見つかり、窯や炉を築くのに適した地形、粘土や薪・水の供給源が豊富にあることが好条件であったと考えられている。平野部では河川に近い地域に高島 A 遺跡、小林遺跡、二口油免遺跡、小杉伊勢領遺跡、黒河尺目遺跡などの集落遺跡が分布し、堅穴住居や掘立柱建物、溝や井戸などの遺構が確認されている。生産地である丘陵部と生活・消費地である平野部とを河川が結んで、物資を運ぶ交通路として機能していたために、集落を営んでいたものと考えられている。

北高木遺跡は、庄川右岸の扇状地上の標高3.4m 前後の平坦地に立地し、東側には和田川の支流である神楽川が流れている。過去の発掘調査より、大量の墨書土器をはじめ出挙制度に関する記載が認められる木簡、人形・斎串・人面墨書土器などの祭祀遺物、染物用の版木状木製品(奈良時代末~平安時代初期)や双型技法の鋳型に伴う鋳造関連遺構(室町時代後期)などの大変貴重な発見が相次ぎ注目を集め、古代射水郡初期荘園の関連施設に推定されている遺跡である。

本遺跡周辺は、遺跡の密集地帯にも関わらず奈良・平安時代の集落跡が発見されていない。しかし、人形・斎串・人面墨書土器などの祭祀関連遺物が同じように出土している遺跡が、市内に2箇所確認されている。奈良時代の祭祀遺跡である赤田 I 遺跡(約3.5km南南東)、縄文時代中期~平安時代初頭の集落跡とされる南太閤山 I 遺跡(約5.0km南)がそれである。



第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/50,000)

- 1. 北高木遺跡 ● 2. 高島A遺跡 ● 3. 小林遺跡 ● 4. 二口油免遺跡 ● 5. 小杉伊勢領遺跡 ● 6. 黒河尺目遺跡 ● 7. 赤田I遺跡 ● 8. 南太閤山I遺跡
- 9. 小杉丸山遺跡 ● 10. 小杉流渡業務団地内遺跡 ● 11. 上野南遺跡 ● 12. 赤坂A~D遺跡 ● 13. 14. 15. 石太郎G~J遺跡

第2章 調査に至る経緯

平成3年度、大島町北高木（現：射水市北高木）地内で企業団地造成事業（第3次補完事業）の計画が町産業課から町教育委員会に提出され、埋蔵文化財包蔵地の有無、取り扱いについて照会を受けた。事業計画地約85,000㎡に平成4年度から4ヶ年計画で敷地を拡大する計画であった。町教育委員会は、富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を受けて試掘調査を実施し、事業計画地の一部（約32,600㎡）に埋蔵文化財包蔵地（北高木遺跡）が良好に遺存することを確認した。その後、保護措置について町教育委員会・町産業課・県埋蔵文化財センターの三者協議を重ね、記録保存を前提とした本発掘調査の方向で進められた。平成4～6年の3年度に亘る本発掘調査が終了、平成7年度には事業完成を予定していたが、企業進出計画が頓挫し未完成のまま膠着状態が続いた。それに伴い今調査区も、造成工事決定時に実施という方向で保留となっていた。しかし、平成18年度、企業進出が本格化したために、市企業立地推進班より依頼を受け着手することとなった。



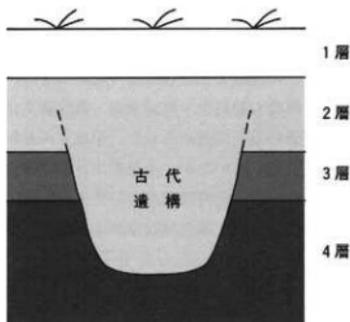
第3図 調査地位置図 (1/2,500)

第3章 調査の概要

地形と層序

北高木遺跡は、1級河川である庄川の右岸扇状地上に位置し、その支流である和田川によって形成された微高地上に遺存している。遺跡には、東面して神楽川も流れている。現況は標高3.4m前後を測り、南から北に向かって緩やかに傾斜する。調査区付近は昭和28年から30年代前半にかけて実施された、ほ場整備による田地割りが見られる。ほ場整備以前のこの周辺は湿地地帯であり、現在でも地下水位が高く、1m程掘り下げると水が自噴する状況である。

調査区の基本層序は4層に区分される。1層は褐灰色～灰黄褐色砂質土で旧耕作土である。2層は褐灰色粘質シルトで、マンガン粒子を豊富に包含している、古代から中世の遺物包含層である。3層は褐灰色～黒褐色粘質シルトで、弥生・古墳時代の遺物包含層である。4層は灰白色～浅黄色やや粘質シルトで、遺物の包含が認められないため、これより下層は地山と判断する。地山面は現況地盤より約50～140cmの深さで検出される。



第4図 基本層序模式図

遺構と遺物

2号溝 (SD02、第5・6・15図)

X12Y4に位置する東西溝である。幅78cm～90cm、全長約3.4mを検出。東端は発掘区外へ伸び、西端は旧排水路カクランにより消滅する。覆土は黄灰色粘質シルトが堆積する。遺物の出土なし。

3号溝 (SD03、第5・6・15図)

X19Y4に位置する東西溝である。幅90cm～150cm、全長2.6mを検出し、東端は発掘区外へ伸びる。断面は皿状を呈し、覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物は須恵器・土師器が出土している。

5号溝 (SD05、第5～10・12～15図、図版1～5・7)

X33Y3に位置し、北東～南西方向に直線的に伸びる溝である。幅580cm～650cm、全長5mを検出。西端は発掘区外へ伸び、東端は平成6年度調査で発掘されたSD100に繋がる流れと考える。断面は概ね逆台形を呈し、西岸から緩やかな勾配が付き、東岸寄りが最も深く検出高より1.1mを測る。覆土は褐灰色～灰黄褐色粘質シルトが厚く堆積し、上層は10層に細分される。断面観察より、中央部やや西岸寄りに5層に細分される溝も確認できる。上層が黒褐色～黒色粘質シルト、中層がオリブ黄色～灰オリブ色やや粘質シルト、下層が灰オリブ色～灰色やや粘質シルト、最下層は下層と粗砂の互層に植物遺体を含む堆積である。この幅200cm～230cm、深さ最深75cmの溝が5号溝の最終段階の流れと考える。遺物は須恵器・土師器・墨書土器・製塩土器・木製品が出土している。第7図1～17は須恵器である。1～6は坏A。2は口径11.8cm、底部はヘラ切り未調整である。5は内外面煤付着のもの。7～9は坏B。10は横瓶。口径10.8cmを測り、体部外面はタキ後カキメ調整、内面は層文当て具である。12～17は坏蓋。12はボタン状のつまみをもち、外面に墨痕が残る。9世紀第3四半期のもの。第7図18～第10図80は土師器である。18～61は口径10.5cm～17.3cmを測り、底部は糸切り未調整

の高無台塊A。口径12cm前後・器高4cm前後のタイプが数量的に多く出土している。22・24・30・47・50は内外面に煤が付着し、26・34・41・44・46は内外面に赤彩が施されている。51～61は墨書塊A。文字には、「富」・「富」・「益」・「ハカ」がある。墨書の部位は、底部外面（51～53・61）・底部内面（55～57）・体部外面（59・60）・底部と体部の両外面（54・58）のもの4つのタイプがある。58は体部外面に3箇所（2「富」・1「益」）、底部外面に1箇所「富」と計4箇所に墨書がみられ、底部外面のものは濃淡の付いた重ね書きとなっている。62～65は有高台の皿B。64は底部と体部の両外面に「富」の墨書がみられる。66～68は無高台の皿A。67・68は底部外面に「富」の墨書。皿類の墨書3点は、「富」ではなくすべて「富」である。69～76は内面が黒色処理されている。土師器の塊・皿類はすべて9世紀第3四半期以降のものである。77は体部外面にカキメ調整を施す長胴甕。79は棒状尖底型の製塩土器。第12図113・118・119は葦串である。上端を圭頭状、下端を剣先状に作りだすもので、樹種はスギである。123は柾目板材横使いの木簡。上部欠損のため判読不明「□□」。

6号溝 (SD06、第5・6・10～14図、図版2～6)

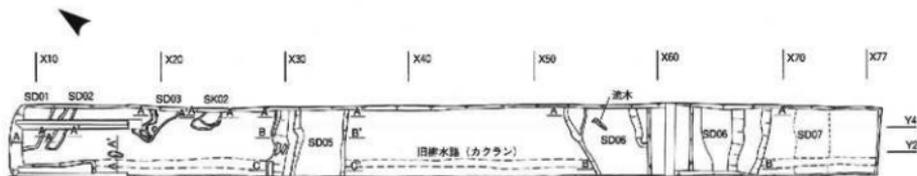
X60Y3に位置する幅13.1m～16.7mの溝である。東端は平成6年度調査で発掘されたSD100に繋がり、西端は調査区外へ一旦伸びるが、蛇行して一連の流れとなり5号溝に合流するものと考えられる。断面は概ね逆台形を呈し、深さは最深で検出高より1.5mを測る。覆土は上層が灰黄褐色～黒褐色粘質シルト、中層が褐色粘質シルト、下層が中層に緑灰色粗砂が底部に混入した堆積である。中層には植物遺体や青色リン粒子も含まれる。遺物は須恵器・土師器・墨書土器・木製品が出土している。第10図81～第11図97は須恵器である。83～90は口径11.2cm～12.8cmを測る坏A。内外面に煤付着のものが多く、灯火具として使用されている。91～96は坏B。93は底部外面に「甥」の墨書がみられる。時期は8世紀第4四半期。97は9世紀第3四半期以降の凸帯付双耳瓶である。第11図103～108はく字状口縁部の土師器小型甕。109・110は管状土鉢。第12図121・122は一端の左右に切り込みを入れる付礼状製品である。124は舟形である。船体部長軸両側に7箇所の上下貫通穴、船底部短軸方向に2組の貫通穴がある。125はクリの木鉢。126・127はケヤキの盤。第13図128は柄杓。柄・底板はスギ、側板はアサノロを使用している。133は直径20.2cmを測る曲物底板である。まな板として転用されており、中心部の凹みや使用痕が著しい。第14図142は胴径30cmを測る曲物、樹種はスギである。

1号土坑 (SK01、第5・6図、図版2)

X16Y2に位置する長楕円形土坑である。規模は長軸116cm、短軸48cm、深さ2cmで、断面は逆台形を呈する。覆土は灰黄色粘質シルトが堆積する。遺物は土師器が出土している。

2号土坑 (SK02、第5・6図、図版2)

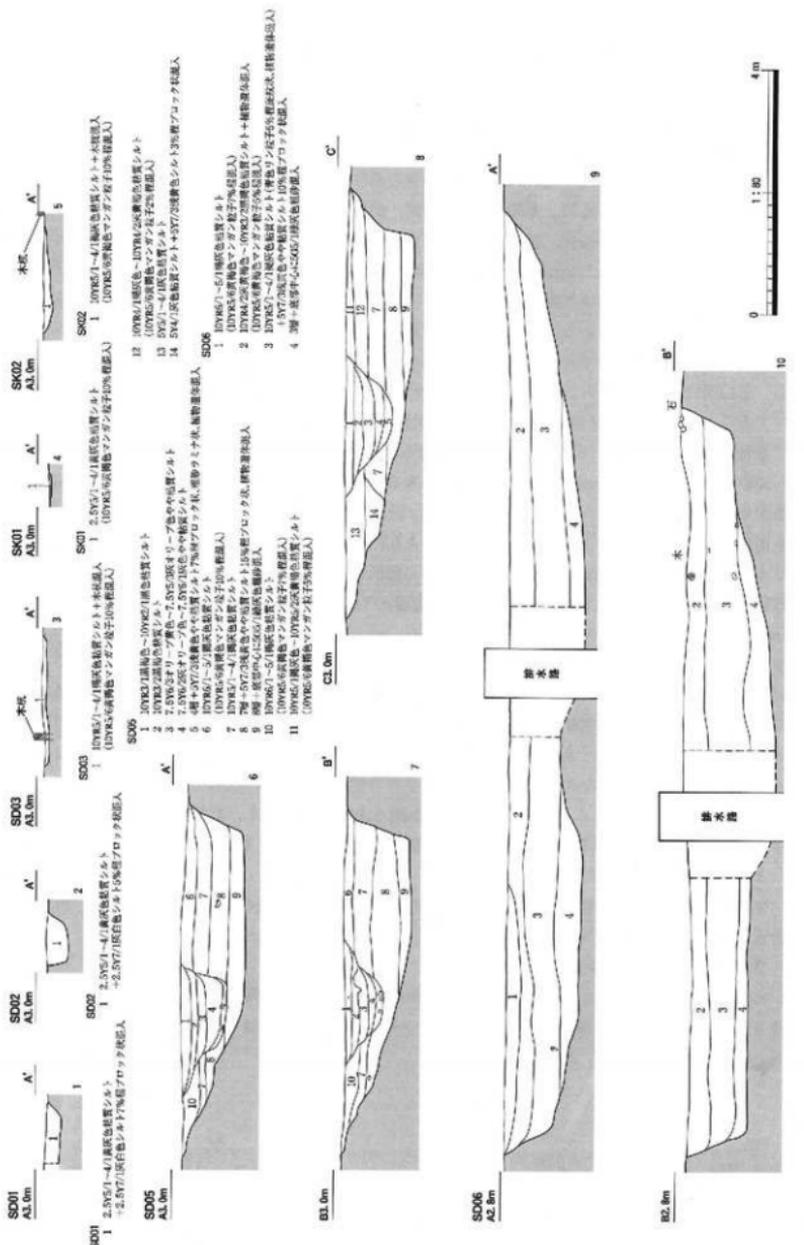
X24Y5に位置する土坑である。発掘区外へ伸びるため、正確な外形不明。断面は不整形を呈し、深さは最深16cmを測る。覆土は褐色粘質シルトが堆積する。遺物は須恵器・土師器が出土している。



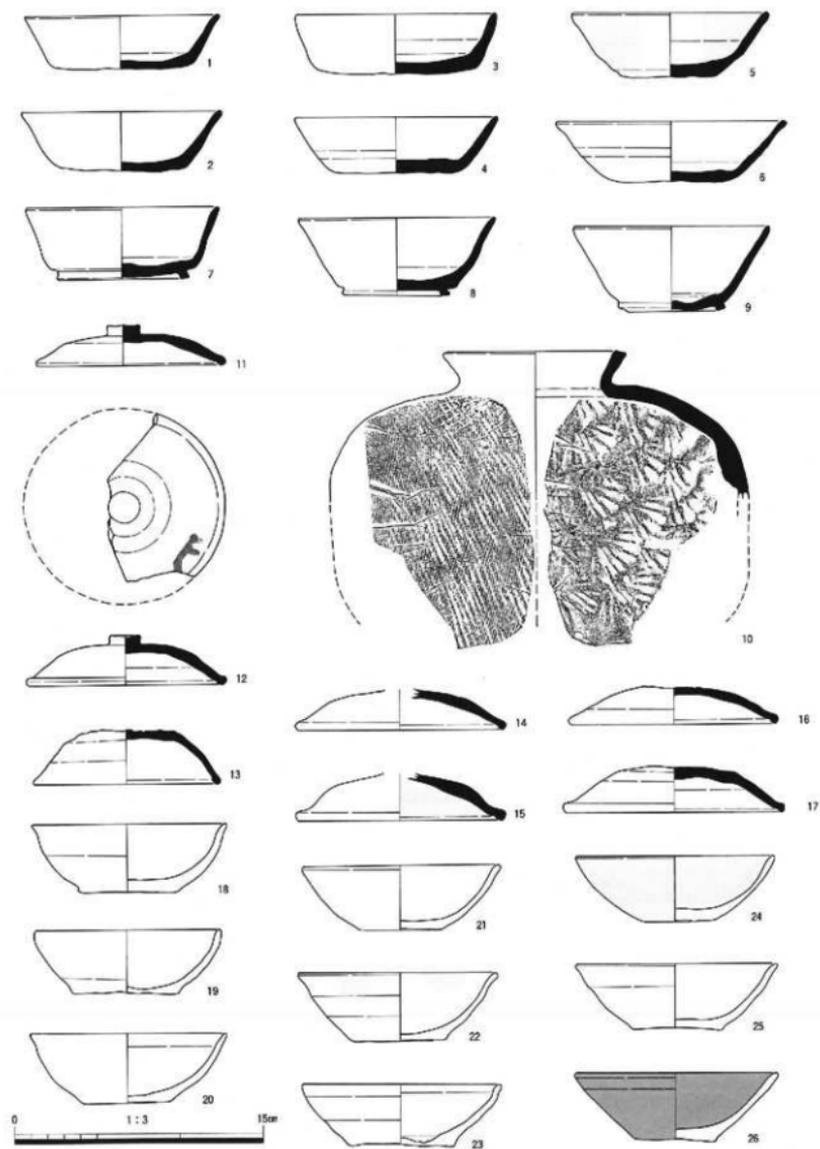
第5図 遺構実測図 (1/400)



第6図 遺構断面図 (1/80)

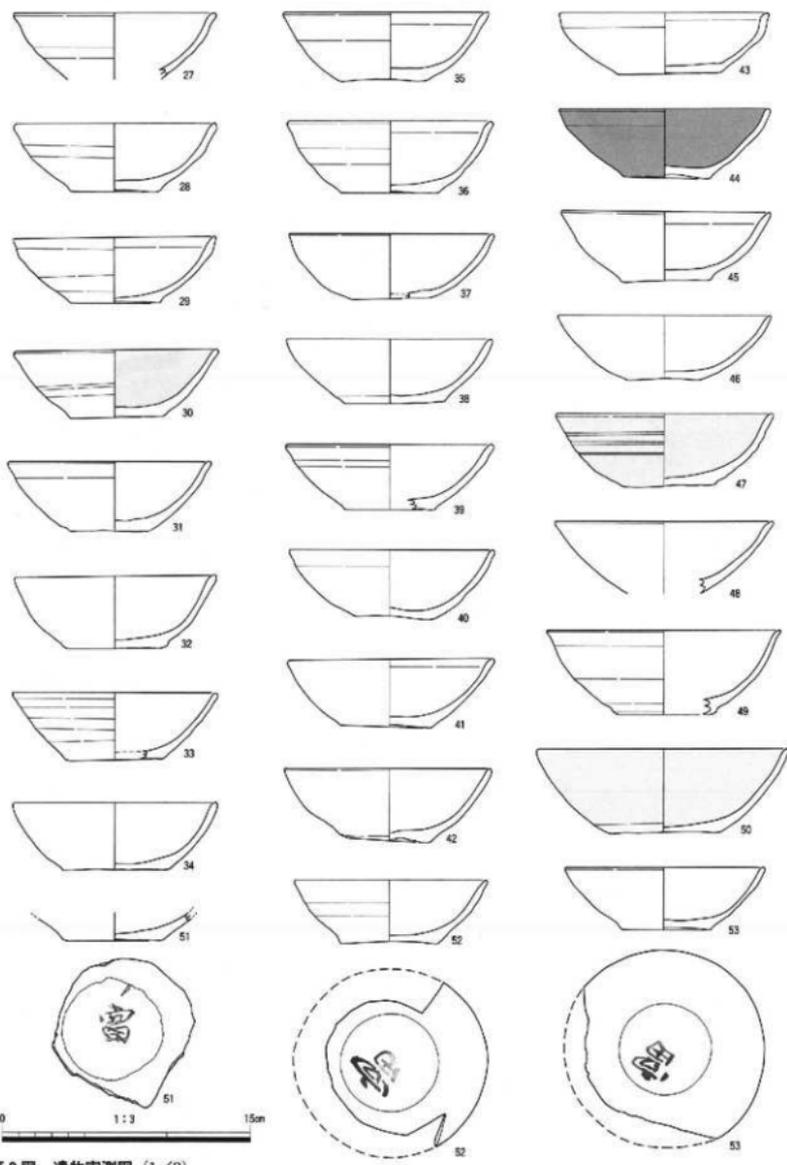


SD01(1) SD02(2) SD03(3) SK01(4) SK02(5) SD05(6-8) SD06(9・10)

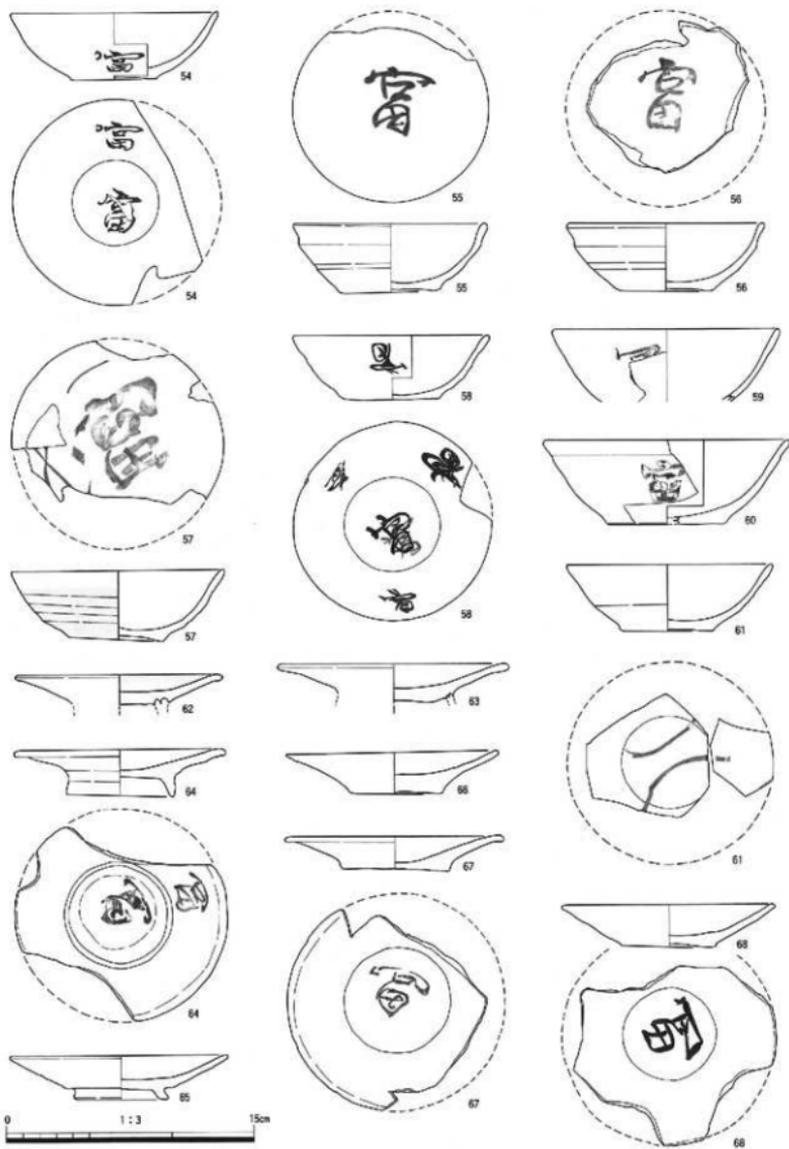


第7図 遺物実測図 (1/3)

SD05(1-26)

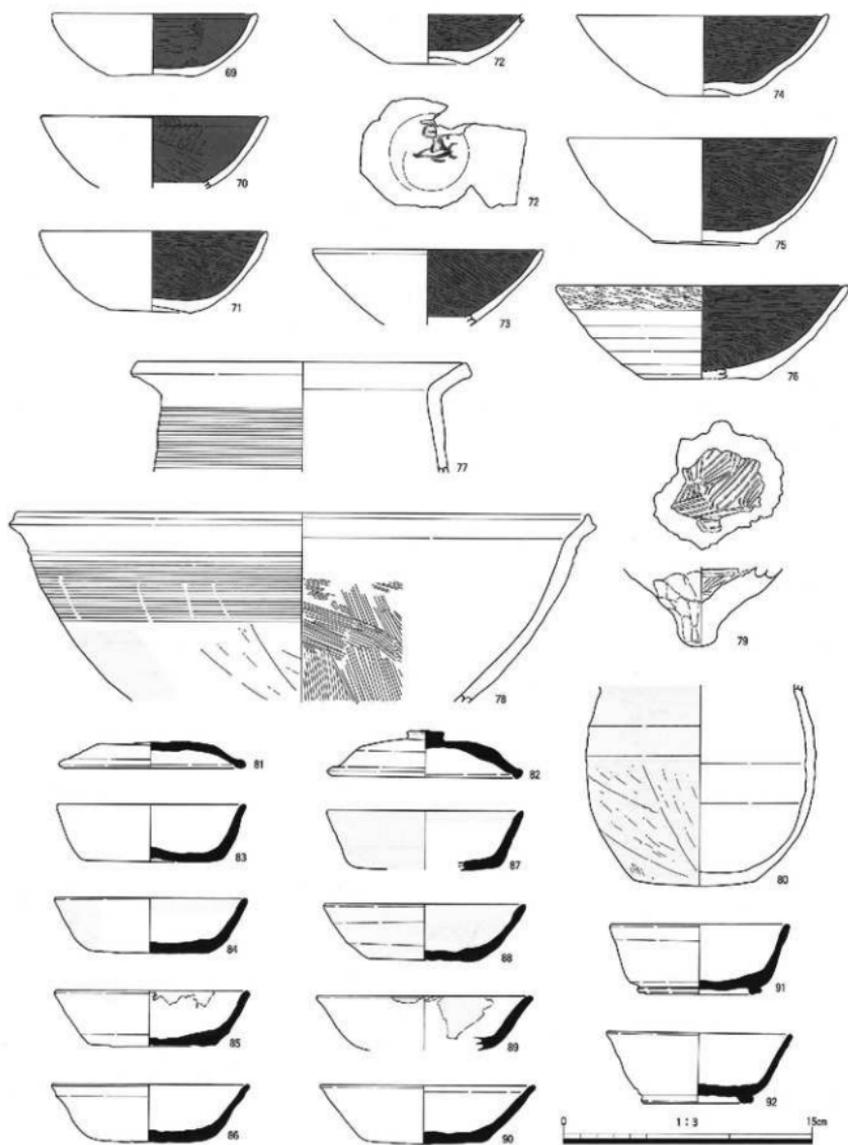


第8圖 遺物実測図 (1/3)
SD05(27-53)



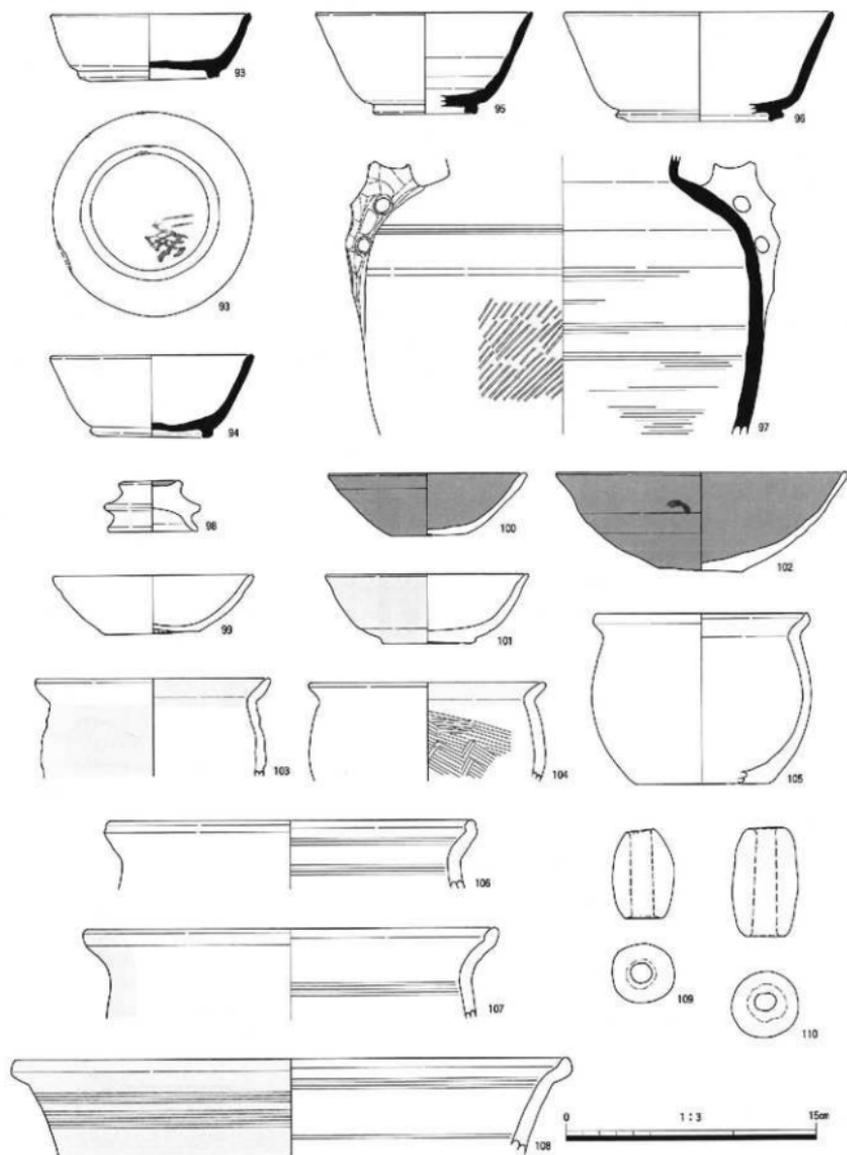
第9図 遺物実測図 (1/3)

SD05(54~68)



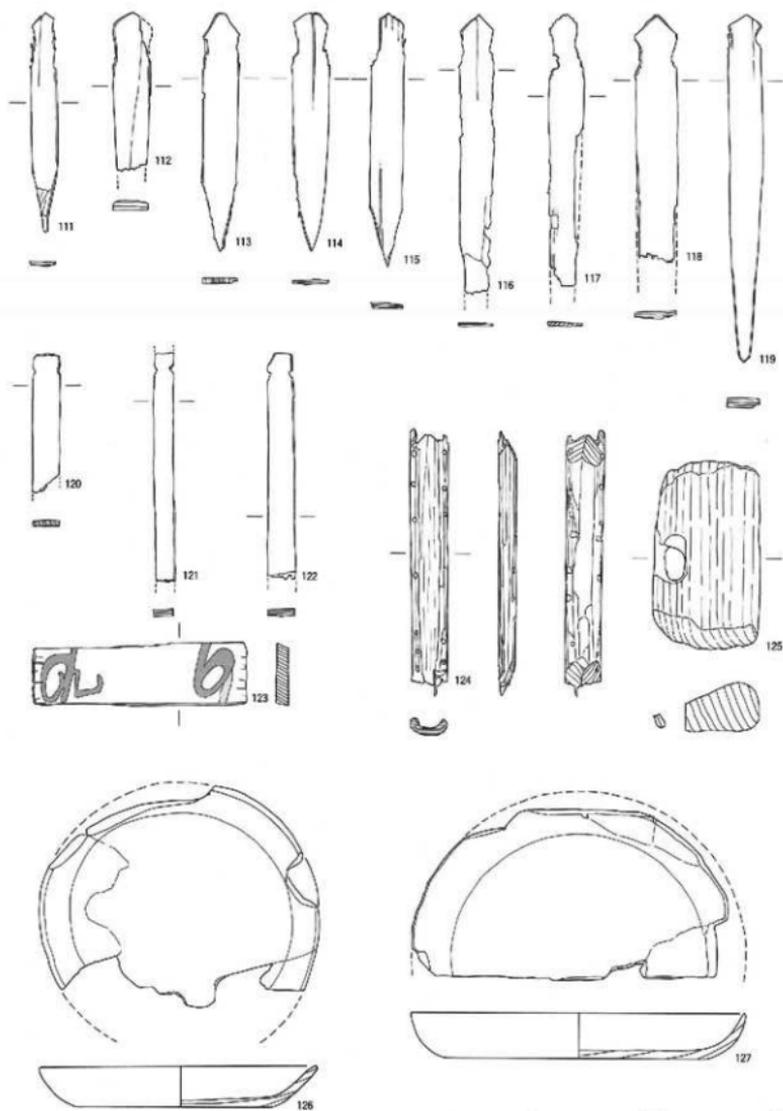
第10图 遗物实测图 (1/3)

SD05(69~80) SD06(81~92)



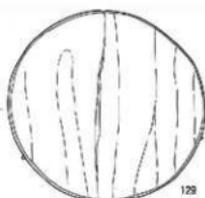
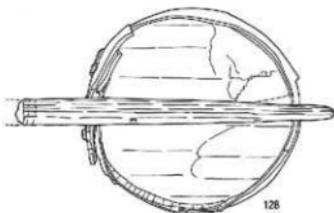
第11図 遺物実測図 (1/3)

SD06(93~110)

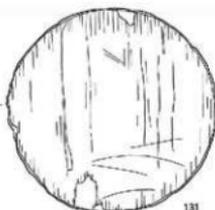


第12図 遺物実測図 (1/3)

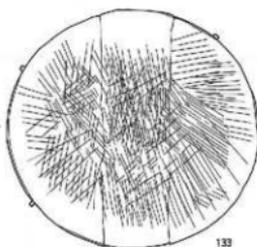
SD05(113-118~120-123) SD06(111-112-114~117-121-122-124~127)



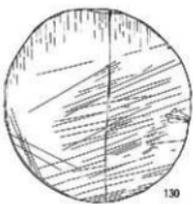
129



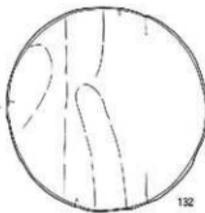
131



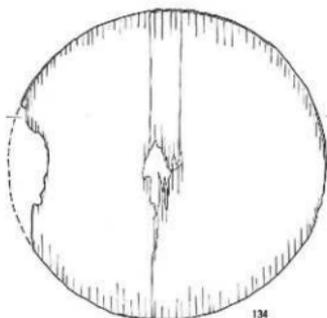
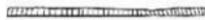
133



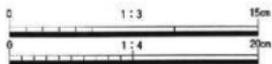
130



132

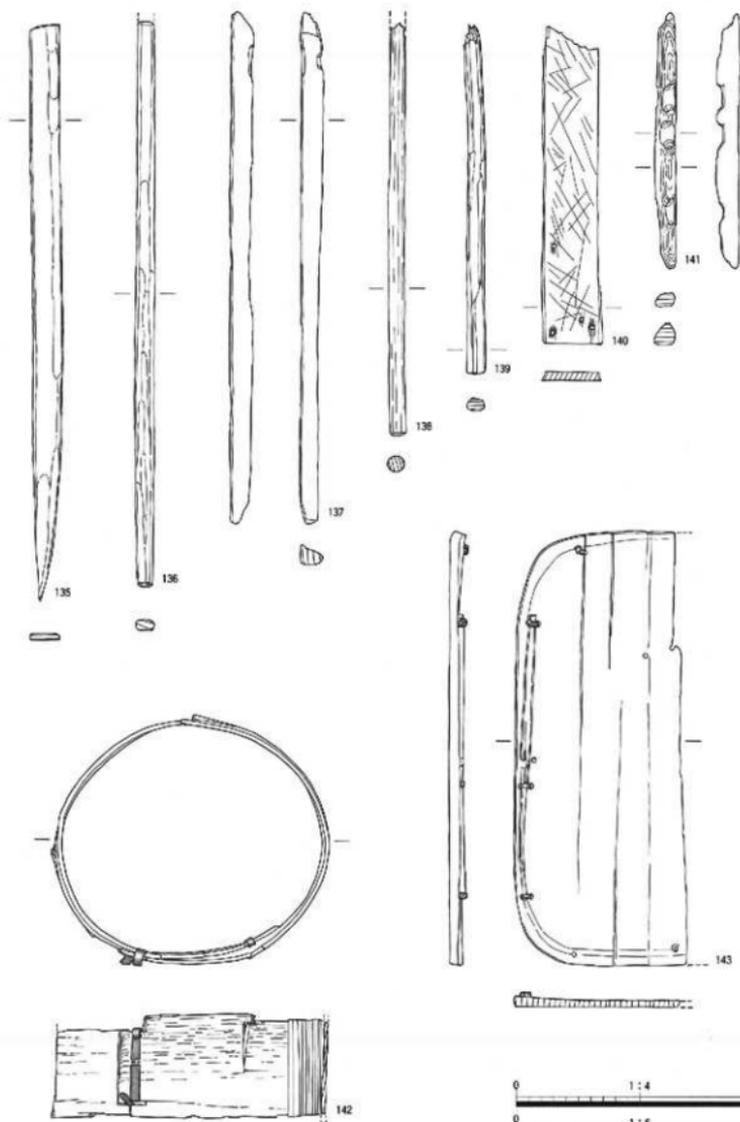


134



第13図 遺物実測図 (128 1/3, 129~134 1/4)

SD05(129-131) SD06(128-130-132~134)



第14图 遗物実測図 (135~141 1/4, 142·143 1/6)

SD05(141) SD06(135~140·142·143)

第4章 自然科学分析

1. 試料

試料は5号溝・6号溝より出土した木製品33点である。(第12図111～第14図143)

2. 方法

試料より木口(横断面)、柾目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、プレパラートを作製した。

このプレパラートを顕微鏡で観察し、組織の特徴から樹種の同定を行った。また、観察した顕微鏡像を撮影記録した。 使用顕微鏡：Nikon MICROFLEX UFX-DX Type115

3. 結果

樹種同定結果(針葉樹2種：スギ・アスナロ、広葉樹2種：クリ・ケヤキ)の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

①スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica* D.Don)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分界壁孔は典型的なスギ型で1分野に1～3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね扁平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

②ヒノキ科アスナロ属 (*Thuopsis* sp.)

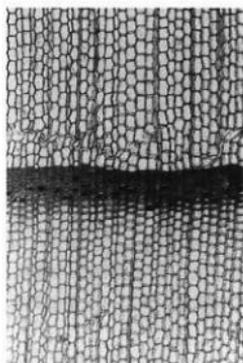
木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分界壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2～4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ(ヒバ、アテ)とヒノキアスナロ(ヒバ)があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

③ブナ科クリ属クリ (*Castanea crenata* Sieb.et Zucc.)

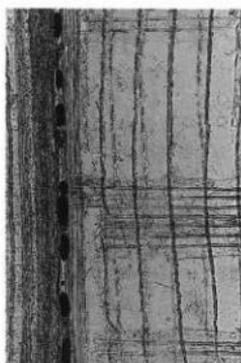
環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管(～500 μ m)が年輪にそって幅のかなり広い孔部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2～3個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり(ストランド)、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道(西南部)、本州、四国、九州に分布する。

④ニレ科ケヤキ属ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino)

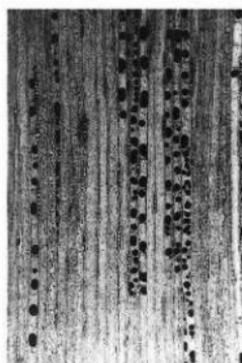
環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管(～270 μ m)が1列で孔部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向細胞は孔部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している(イニシアル柔組織)。放射組織は1～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の1～3列のものと大部分を占める6～7細胞列のほぼ大きさの様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。



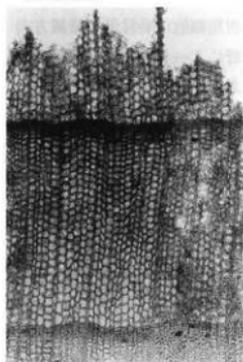
①スギ科スギ属スギ
6号溝出土 曲物 (第14図142)
木口：40倍



柁目：100倍



板目：40倍



②ヒノキ科アスナロ属
6号溝出土 桝約翻板 (第13図128)
木口：40倍



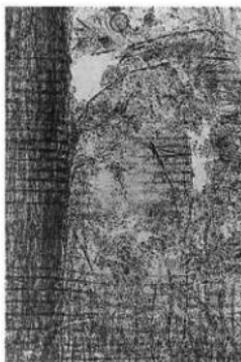
柁目：100倍



板目：40倍



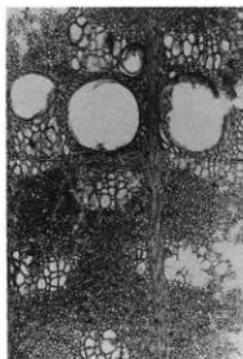
③ブナ科クリ属クリ
6号溝出土 木鍾 (第12図125)
木口：40倍



柁目：100倍



板目：40倍



④ニレ科ケヤキ属ケヤキ
6号清出土 盤 (第1214127)
木口：40倍



椀目：40倍



板目：40倍

第1表 木製品樹種同定表

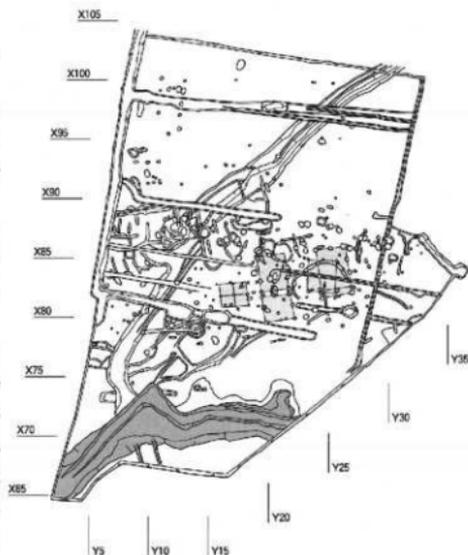
図版番号	器種	樹種	図版番号	器種	樹種
111	斎串	スギ科スギ属スギ	128	柄杓(底板・柄)	スギ科スギ属スギ
112	斎串	スギ科スギ属スギ		◇(側板)	ヒノキ科アスナロ属
113	斎串	スギ科スギ属スギ	129	曲物底板	スギ科スギ属スギ
114	斎串	スギ科スギ属スギ	130	曲物底板	スギ科スギ属スギ
115	斎串	スギ科スギ属スギ	131	曲物底板	スギ科スギ属スギ
116	斎串	スギ科スギ属スギ	132	曲物底板	スギ科スギ属スギ
117	斎串	スギ科スギ属スギ	133	曲物底板	スギ科スギ属スギ
118	斎串	スギ科スギ属スギ	134	曲物底板	スギ科スギ属スギ
119	斎串	スギ科スギ属スギ	135	串状製品	スギ科スギ属スギ
120	付札状製品	スギ科スギ属スギ	136	柄杓の柄	スギ科スギ属スギ
121	付札状製品	スギ科スギ属スギ	137	鳥形状製品	スギ科スギ属スギ
122	付札状製品	スギ科スギ属スギ	138	棒状製品	スギ科スギ属スギ
123	木筒	スギ科スギ属スギ	139	棒状製品	スギ科スギ属スギ
124	舟形	スギ科スギ属スギ	140	板状製品	スギ科スギ属スギ
125	木錘	ブナ科クリ属クリ	141	火臼状製品	スギ科スギ属スギ
126	盤	ニレ科ケヤキ属ケヤキ	142	曲物	スギ科スギ属スギ
127	盤	ニレ科ケヤキ属ケヤキ	143	隅丸底板	スギ科スギ属スギ

第5章 考 察

古代北高木遺跡の復元案

北高木遺跡を発掘調査による考古学や古文書にみる文献史学の各分野から復元してみる。

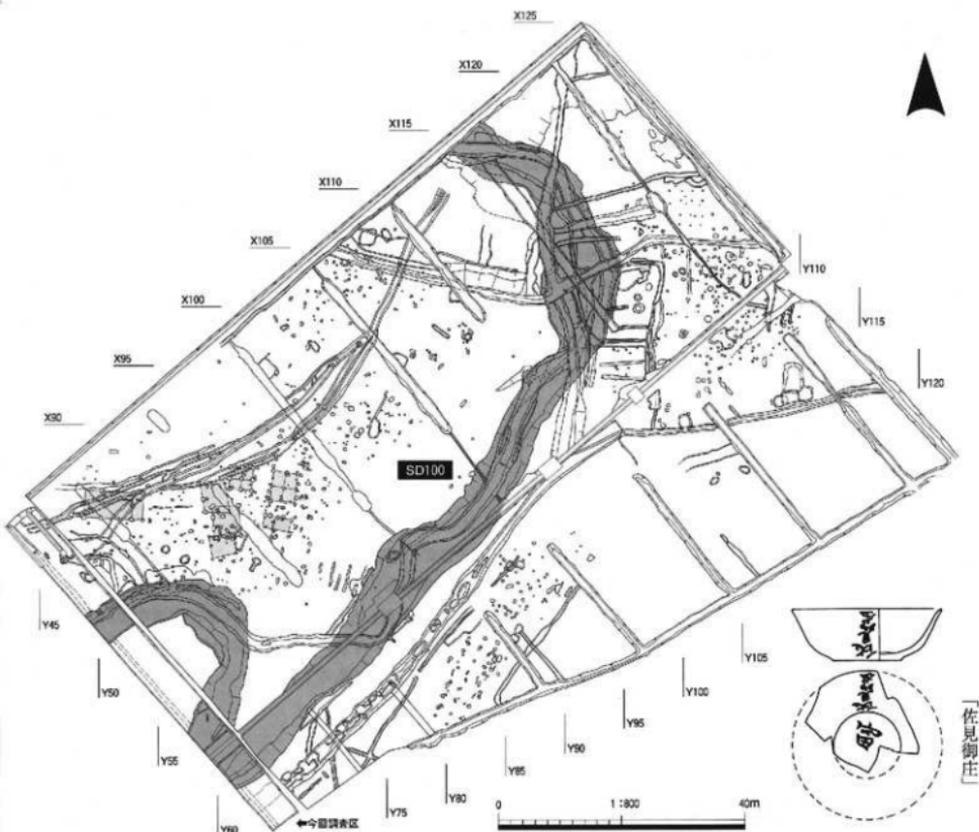
出土遺物より、8世紀第3四半期(750)を下限とする年代が考えられる。この時期は、大伴家持が越中国司として赴任している。天平21年(749)東大寺が射水郡に4荘園(栲田・須加・鳴戸・鹿田)を占定。この荘園は現地比定案(第16図)がされ、射水市内に限れば鹿田荘のみが市域内となる。従って、北高木遺跡周辺は東大寺領荘園には属さない地域であったことがいえる。天平勝宝4年(752)「正倉院文書」に「越中国射水郡三嶋郷戸主射水臣某」と記されている。従前から遺跡を含む射水平野一帯を大伴家持が歌に詠む三島野であるという説からも、この三嶋郷に当遺跡が含まれ、伊弉諾国造を祖先にもつ射水臣氏の統治下にあったと考える。当時の射水郡司大領には阿努郷(現:氷見市)がその故地であると比定されている安努君氏(安努君広高)が就任しており、射水臣氏が射水郡で衰勢にあったことが考えられる。この射水臣氏と三嶋郷時代には、墨書土器(人面墨書土器含む)や木製祭祀具の出土により、識字者が祭祀を行っている。天平勝宝6年(754)「東南院文書」に「越中国射水郡川口郷戸主中臣部照麻呂～」と記され、三嶋郷北側に隣接していたであろう川口郷に、宮廷の神事や祭祀をつかさどっていた中臣氏に属した部民がいたことも、この祭祀に関係深い人物と考える。古文書と墨書土器の類似例をあげると、天平勝宝5年(753)「正倉院古契銘文集成」に「越中国鳳至郡大屋郷舟木秋麻呂」の名があり、須恵器杯の「秋万呂」・「秋」と同一人物を指す可能性がある。製塩土器の出土とともに古代鳳至郡が越中国であったことに起因した、交流の証であると考えられる。また、天平宝字3年(759)「東大寺領新川郡大藪荘荘園図」に「笠朝臣糞麻呂」の名があり、須恵器杯の「糞麻呂」・「糞麻呂」銘文木簡と同一人物を指す可能性がある。また、須恵器杯「丈部」と東大寺領新川郡丈部荘など、新川郡と射水郡三嶋郷の射水臣氏との関連が古



第15図 遺構実測全体図 (1/800)



第16図 古代荘園現地比定案図



文書・墨書土器から推察できる。立山町辻遺跡出土(平成元年)の「郡司射水」木簡は、新川郡への射水臣氏進出を表付けている。さらに、八幡林遺跡(新潟県)の「射水臣」木簡や畝田ナベタ遺跡(石川県)の「射水」墨書土器などから、県外進出も考古遺物より判明している。

東大寺領荘園に属していなかった三嶋郷は、変革期を向かえる。9世紀(800)以降の「庄」・「西庄」の墨書土器や遺跡西方「中野」の地名などから、西大寺領中野荘の一角に含まれるものと考えられる。この時期、射水臣氏の動静を示す文献史料がないので、中野荘が同氏の統治下であったかは立証できないものの、在地者以外とは考えにくい。西大寺は天平神護元年(765)称徳天皇の勅願により創建。宝亀11年(780)「西大寺資財流記帳」に射水郡榛山荘・中野荘・新川郡佐味荘の荘園が記されている。9世紀第3四半期(850)以降の土師器塚に「佐見御庄」墨書があり、新川郡佐味荘と考えられることから西大寺領下の交流を物語るとともに、中野荘である証拠と捉えるのが妥当と考える。神護景雲2年(768)～同4年(770)「西大寺田籍帳」等に越中国の記載があることから、西大寺領中野荘の成立期と考えられる。8世紀第4四半期(775)以降、須恵器塚の「十」墨書が9世紀第3四半期頃まで継続する。その他、「法」という墨書も1点出土している。これらの文字は、迷いと悟りの世界を十種に分けた十法界(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上・声聞・縁覚・菩薩・仏)を意味するものと考えられる。西大寺領となったために、仏教の教えが祭祀にまで反映された結果ではないかと考える。延暦18年(799)～貞観5年(863)の間に、文献に残るだけでも5回の天災(飢饉・干ばつ・地震)に越中国が見舞われているため、墨書土器や木製祭祀具に込める思いの強さが伝ってくる。9世紀第3四半期(850)

以降、須恵器坏に交じって土師器塊の墨書土器が出土する。文字内容や木製祭祀具を伴わないなど、祭祀形態の変革がこの時期にあると考える。貞観5年(863)『三代実録』記載の越中・越後の大地震により多くの圧死者がでたことを継起として、今後の暮らしが益々富に満ちていくよう願う希望から、「富」・「益」といった墨書の土師器塊が出土してくるものと考え、貞観5年(863)の大地震以降より、新たな祭祀の各期が始まるものと思われる。この時期に属する墨書には「佐見御庄」も含まれる。新川郡佐味荘で使用された土器が搬入してきたとも考えられるが、同じ西大寺領荘園を案する祭祀が行われたと考えることも可能である。仁和2年(886)『三代実録』に「越中国新川郡擬大領正七位伊弉頭臣貞益」と記され、射水臣氏の台頭ぶりがこの時期の新川郡においても伺えることから、同氏の佐味荘進出を立証する史料の発見によっては、同氏族の繁栄を願う祭祀が行われたことに繋がる。延喜10年(910)『越中国官倉納穀交替記』に「砺波郡擬大領従八位上射水臣常行」と記され、新川郡に引続き砺波郡にまでその勢威を拡大している。これを最後に康平2年(1059)までの約150年間、射水臣氏の文献史料は確認されていない。

今回は出土遺物や文献から古代北高木遺跡を復元してみた。8世紀第3四半期(750)～9世紀第4四半期(900)頃までの約150年間を中心として、壘山経営・祭祀の形態に各々二時期あることが考えられた。壘山経営については、地元豪族の射水臣氏による三嶋郷時代と西大寺領中野荘時代である。祭祀については、須恵器坏を主体とした墨書土器(人面墨書土器含む)や木製祭祀具(人形・甕中など)を中心とする時期と土師器塊の墨書土器を中心とする時期である。今後、実年代をもつ史料の発見如何によっては、新たな古代北高木遺跡を甦らせてくれる復元が可能であろう。

〔引用参考文献〕

- 荒井 隆他 2001 『石塚遺跡・東木津遺跡調査報告』 富山県 高岡市教育委員会
 安念時倫他 1996 『北高木遺跡発掘調査報告書』 富山県 大島町教育委員会
 池野正真他 2002 『石名田木舟遺跡発掘調査報告』 富山県文化振興財団 壘山文化財調査事務所
 福留実美他 2003 『赤田Ⅰ遺跡発掘調査報告』 富山県 小杉町教育委員会
 藤島巖也他 2006 『木田大見遺跡発掘調査報告書』 富山県 富山市教育委員会
 岸本雅敏他 1985 『じょうべのま遺跡』 富山県 入善町教育委員会
 岸本雅敏他 1985 『南太田山Ⅰ遺跡』 『都市計画街路七美・太田山・高岡緑内遺跡群発掘調査要報(3)』 富山県教育委員会
 久々 忠義 1991 『荒畑遺跡発掘調査要報』 富山県 大島町教育委員会
 橋 正勝他 1998 『西金・南新保遺跡Ⅳ』 石川県 金沢市教育委員会
 橋 正勝他 1999 『磯部カンダ遺跡』 石川県 金沢市埋蔵文化財センター
 小嶋芳孝他 2001 『石川県埋蔵文化財情報』 第6号 財団法人 石川県埋蔵文化財センター
 小西 昌志 1996 『金心小町遺跡Ⅱ』 石川県 金沢市教育委員会
 小西昌志他 1988 『上笠川遺跡Ⅲ奈良・平安時代(2)』 石川県 金沢市教育委員会
 田中 明 2005 『北高木遺跡』 富山県 大島町教育委員会
 出越 茂和 2000 『戸水大西遺跡Ⅰ』 石川県 金沢市埋蔵文化財センター
 出越茂和他 2002 『大友西遺跡Ⅱ』 石川県 金沢市埋蔵文化財センター
 出越茂和他 2003 『大友西遺跡Ⅲ』 石川県 金沢市埋蔵文化財センター
 横津 明義 2000 『須田原の水遺跡調査報告』 富山県 高岡市教育委員会
 深井基三他 2001 『ふるさと富山歴史館』 富山新報社
 堀沢祐一他 1998 『豊田大塚遺跡発掘調査要報』 富山県 富山市教育委員会
 前田 雪恵 2001 『戸水大西遺跡Ⅱ』 石川県 金沢市埋蔵文化財センター
 三浦純夫他 2003 『池登町真盛製塩遺跡』 財団法人 石川県埋蔵文化財センター
 光谷祐実他 2006 『歴史学の最新研究における年齢年代法の応用』 独立行政法人 奈良文化財研究所
 森 秀典他 1989 『立山町埋蔵文化財分布調査報告書』 富山県 立山町教育委員会
 森 秀典他 1990 『辻遺跡第2次発掘調査報告書』 富山県 立山町教育委員会
 吉岡康晴他 1983 『東大寺領横江庄遺跡』 石川県 松任市教育委員会・石川考古学研究会

第2表 古代北高木遺跡年表

和暦	西暦	古代射水郡関連事項	射水臣氏と三嶋郷	須恵器と木製祭祀具	土師器
天平18	746	6.21 従五位下大伴宿禰家持が越中守に任命される。【続日本紀】			
天平21	749	3.16 大伴宿禰家持が三島野の歌を詠む。【万葉集】 4 東大寺が越中国内に慈田兼占定:射水郡(横田・須加・鳴戸・鹿田各荘) 7.17 大伴宿禰家持が少納言に遷任されたため、別れを悲しむ歌を作り、久米朝臣広綱の館に贈る。【万葉集】			
天平勝宝3	751	8.5 大伴宿禰家持が帰京するに際して、射水郡大領安努君広島の門前の林中で送別の宴があり、歌を詠む。【万葉集】			
天平勝宝4	752	10.18 越中国射水郡兼江野戸主三宅黒人、三嶋郷戸主射水臣某の名がみえる。【正倉院文書】			
天平勝宝5	753	越中国鳳至郡大隈郷舟木秋麻呂が調を納める。【正倉院古契銘文集成】			
天平勝宝6	754	越中国射水郡布西郷千鳥が調白一黒を納める。【正倉院古契銘文集成】 10.21 越中国射水郡川口郷戸主中部郡照麻呂が調白黒綿一屯を納める。【東大院文書】			
天平宝字3	759	笠朝臣眞麻呂の名がみえる。【東大寺新川郡大蔵荘荘園図】 射水郡古江郷戸阿努君具足の名がみえる。【東大寺射水郡鳴戸村開田図】			
天平神護1	765	西大寺が称徳天皇の勅願により創建される。 4.4 美濃・能登・越中国などが飢饉となる。【続日本紀】			
神護景雲1	767	11.16 越中国可らが越中国射水郡東大寺聖田地の開田状況を申上する。【東大院文書】 笠朝臣眞麻呂の名がみえる。【新川郡大蔵荘荘園図】			
神護景雲2	768	西大寺に奴婢を越中国から獻入している。【西大寺勸書官符陸拾卷巻】			
神護景雲3	769	西大寺の田籍帳に「越中国没官物并田籍一卷」が記録されている。			
神護景雲4	770	西大寺の田籍帳に「越中国稲田帳一卷」が記録されている。			
宝龜11	780	12.25 西大寺三綱らが資財目録を作成し、そのなかに射水郡糠山荘・中野荘・新川郡佐味荘の荘園等が記される。【西大寺資財流記帳】			
延暦18	799	6.25、7.23 越中国に飢饉、都から使が遣わされる。【日本後紀】			
延暦21	802	9.3 越中国を含む諸国の損田百姓の租税を免じ、調を徴収する。			
延暦23	804	6.10 越中国の等級が上国となる。			
延暦24	805	5.26 越中国に飢饉が発生し、庸を免じられる。			
承和5	838	9.29 越中国などに灰のようなものが降り、豊年となる。			
嘉祥1	848	6.3 越中国が飢饉となる。【続日本後紀】			
嘉祥4	851				
斉衡3	856	7.11 越中国に干ばつのあったことが報告される。【文徳実録】			
貞観5	863	6.17 越中、越後国に大地震が発生し、家屋倒壊による圧死者が多くでる。【三代実録】			
仁和2	886	12.18 越中国新川郡大領正七位伊弉頭臣貞益が人民に代わって私物を納めたので、仮に外従五位下を授けられる。【三代実録】			
寛平11	899				
延喜2	902	3 延喜の荘園整理令が出される。			
延喜10	910	7.9、10.15 雨波郡樞大領従八位上射水臣常行の名がみえる。【越中国官倉納穀交替記】			

第3表 出土遺物観察表

図版	No.	遺構	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第7図	1	SD05	須恵器	坏A	11.5	3.2	8.0		□2/3 底完存
	2	SD05	須恵器	坏A	11.8	3.6	7.0	内面煤付着 ヘラ切り痕	ほぼ完形
	3	SD05	須恵器	坏A	11.8	3.6	9.4	内外面煤付着	□1/2 底1/2
	4	SD05	須恵器	坏A	11.9	3.4	8.1	ヘラ切り痕	□1/3 底1/2
	5	SD05	須恵器	坏A	11.7	3.8	5.9	内外面煤付着	□1/3 底完存
	6	SD05	須恵器	坏A	13.5	3.6	6.8		□3/8 底1/2
	7	SD05	須恵器	坏B	11.3	4.3	7.1		□1/4 底完存
	8	SD05	須恵器	坏B	11.6	4.7	6.4		完形
	9	SD05	須恵器	坏B	11.7	5.2	5.4		□1/2 底完存
	10	SD05	須恵器	横瓶	10.8			外面自然釉・内面漆痕?付着	□2/3 体1/3
	11	SD05	須恵器	坏蓋	10.9	2.4			完形
	12	SD05	須恵器	坏蓋	11.5	3.0		外面黒痕	□1/3
	13	SD05	須恵器	坏蓋	10.9	3.3		ヘラ切り痕	□1/2
	14	SD05	須恵器	坏蓋	12.2				□1/4
	15	SD05	須恵器	坏蓋	12.2			内外面煤付着	□1/4
	16	SD05	須恵器	坏蓋	12.2	2.2			完形
	17	SD05	須恵器	坏蓋	12.8	2.7		ヘラ切り痕	□2/3 底完存
	18	SD05	土師器	碗A	10.5	4.1	6.0	糸切り痕	□1/2 底完存
	19	SD05	土師器	碗A	10.9	3.8	6.3	糸切り痕	完形
	20	SD05	土師器	碗A	11.6	4.2	5.4	糸切り痕	□3/4 底完存
	21	SD05	土師器	碗A	11.7	3.9	5.1	外面黒痕 糸切り痕	□5/8 底完存
	22	SD05	土師器	碗A	11.8	4.1	5.8	内外面煤付着 糸切り痕	□1/4 底完存
	23	SD05	土師器	碗A	11.8	3.8	6.3	糸切り痕	完形
	24	SD05	土師器	碗A	11.8	4.0	4.3	内外面煤付着 糸切り痕	□2/3 底完存
	25	SD05	土師器	碗A	11.9	3.9	5.5	糸切り痕	□4/7 底完存
	26	SD05	土師器	碗A	11.9	4.0	5.0	内外面赤彩痕 糸切り痕	□3/4 底完存
第8図	27	SD05	土師器	碗A	12.0				□1/2
	28	SD05	土師器	碗A	11.9	4.1	5.4	糸切り痕	□2/3 底完存
	29	SD05	土師器	碗A	12.0	3.9	5.4	糸切り痕	ほぼ完形
	30	SD05	土師器	碗A	12.0	4.1	5.8	内面煤付着 糸切り痕	□1/6 底完存
	31	SD05	土師器	碗A	12.0	4.2	4.9	糸切り痕	□1/4 底完存
	32	SD05	土師器	碗A	12.0	4.4	6.3	糸切り痕	□1/2 底5/6
	33	SD05	土師器	碗A	12.1	4.1	6.0	糸切り痕	□1/2/5 底1/6
	34	SD05	土師器	碗A	12.1	4.1	6.5	内外面赤彩痕	□1/2/5 底完存
	35	SD05	土師器	碗A	12.1	4.2	5.2	糸切り痕	□1/4/7 底完存
	36	SD05	土師器	碗A	12.1	4.4	5.9	底部外面黒書痕 糸切り痕	□1/3/7 底完存
	37	SD05	土師器	碗A	12.2	3.9	4.8	糸切り痕	□1/3/4 底完存
	38	SD05	土師器	碗A	12.2	3.9	6.1	糸切り痕	□1/4 底完存
	39	SD05	土師器	碗A	12.2	4.0	5.6	糸切り痕	□1/3/8 底1/2
	40	SD05	土師器	碗A	12.2	4.1	4.9	糸切り痕	□1/4 底完存
	41	SD05	土師器	碗A	12.2	4.1	5.6	内外面赤彩痕 糸切り痕	□1/4 底完存
	42	SD05	土師器	碗A	12.2	4.4	5.5	糸切り痕	□1/5/6 底完存
	43	SD05	土師器	碗A	12.4	3.7	6.3	糸切り痕	□1/3/7 底7/8
	44	SD05	土師器	碗A	12.4	4.2	5.3	内外面赤彩痕 糸切り痕	□1/2 底完存
	45	SD05	土師器	碗A	12.4	4.2	5.5	糸切り痕	□1/2 底完存
	46	SD05	土師器	碗A	12.7	3.9	4.4	内外面赤彩痕 糸切り痕	□1/2 底完存
	47	SD05	土師器	碗A	12.8	4.4	5.6	内外面煤付着 糸切り痕	□1/5/8 底完存
	48	SD05	土師器	碗A	13.0	4.4			□1/2
	49	SD05	土師器	碗A	13.9	5.1	6.2	糸切り痕	□1/3/8
	50	SD05	土師器	碗A	14.9	5.1	6.8	内外面煤付着 糸切り痕	□1/3/4 底4/5

□:口縁部 底:底部 体:体部 坏:坏部 脚:脚部

第4表 出土遺物観察表

図版	No.	遺構	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量	
第8図	51	SD05	土師器	埴A			6.2	底部外面墨書「富」 糸切り痕	底完存	
	52	SD05	土師器	埴A	11.5	3.8	5.9	底部外面墨書「富」 糸切り痕	口1/3 底完存	
	53	SD05	土師器	埴A	11.9	3.7	5.4	底部外面墨書「富」 糸切り痕	口4/7 底完存	
第9図	54	SD05	土師器	埴A	12.2	4.0	5.1	体・底部外面墨書「富」2箇所	口5/8 底完存	
	55	SD05	土師器	埴A	11.3	4.1	5.9	内底面墨書「富」 糸切り痕	口3/4 底完存	
	56	SD05	土師器	埴A	11.6	4.1	5.8	内底面墨書「富」 糸切り痕	底完存	
	57	SD05	土師器	埴A	12.6	4.1	5.7	内底面墨書「富」 外面煤付着	口1/2 底完存	
	58	SD05	土師器	埴A	11.5	3.9	5.7	体部外面「富」2箇所「益」 底部外面「富」底ね書き 体部外面墨書「富」	ほぼ完存	
	59	SD05	土師器	埴A	13.3			体部外面墨書「富」	口1/3	
	60	SD05	土師器	埴A	14.5	5.1	7.1	体部外面墨書「富」 糸切り痕	口1/3	
	61	SD05	土師器	埴A	12.1	4.0	5.5	底部外面墨書「八」? 糸切り痕	口1/16 底完存	
	62	SD05	土師器	皿B	11.9			内面煤付着 糸切り痕	口1/2	
	63	SD05	土師器	皿B	13.3			内外面赤彩痕 糸切り痕	口1/6	
	64	SD05	土師器	皿B	11.9	2.8	6.3	体・底部外面墨書「富」2箇所	口1/2 底完存	
	65	SD05	土師器	皿B	12.8	2.7	5.4	糸切り痕	口1/3	
	66	SD05	土師器	皿A	12.5	2.5	5.1		ほぼ完存	
	67	SD05	土師器	皿A	12.7	2.0	6.4	底部外面墨書「富」 糸切り痕	口1/3 底完存	
	68	SD05	土師器	皿A	12.4	2.6	5.6	底部外面墨書「富」 糸切り痕	口1/4 底完存	
	第10図	69	SD05	土師器	埴A	12.0	3.7	5.4	内面黒色 糸切り痕	口1/6 底完存
		70	SD05	土師器	埴A	13.4	4.3		内面黒色	口1/4
71		SD05	土師器	埴A	13.4	4.9	5.0	内面黒色 糸切り痕	口7/8 底完存	
72		SD05	土師器	埴A			4.8	底部外面墨書「富」 内面黒色	底5/6	
73		SD05	土師器	埴A	13.6			内面黒色	口3/4	
74		SD05	土師器	埴A	14.8	4.8	4.6	体部外面墨書痕 内面黒色	口5/8 底完存	
75		SD05	土師器	埴A	16.0	6.4	6.4	内面黒色 糸切り痕	口3/4 底完存	
76		SD05	土師器	埴A	17.3	5.8	7.0	内面黒色	口1/4 底3/8	
77		SD05	土師器	壺	19.0				口1/8	
78		SD05	土師器	罎	34.0			外面煤付着	口1/4	
79		SD05	土師器	甕				棒状尖底	破片	
80		SD05	土師器	壺			7.4	外面煤付着	体1/3 底完存	
81		SD06	須恵器	坏壺	10.8	1.6		内面墨痕 ヘラ切り痕	口7/8	
82		SD06	須恵器	坏壺	11.1	2.9			完形	
83		SD06	須恵器	坏A	11.2	3.5	8.6	ヘラ切り痕	ほぼ完形	
84		SD06	須恵器	坏A	11.4	3.4	7.4	内外面煤付着 ヘラ切り痕	完形	
85		SD06	須恵器	坏A	11.6	3.4	7.5	内外面煤付着 ヘラ切り痕	口1/4底 ほぼ完存	
86		SD06	須恵器	坏A	11.8	3.5	7.2	ヘラ切り痕	口1/4 底完存	
87		SD06	須恵器	坏A	11.7	3.6	7.9	内外面煤付着	口2/5	
88		SD06	須恵器	坏A	11.9	3.4	6.6	内外面煤付着 ヘラ切り痕	口2/3 底完存	
89	SD06	須恵器	坏A	12.8	3.3		内外面煤付着	口1/3		
90	SD06	須恵器	坏A	12.8	3.5	7.4	ヘラ切り痕	口3/4 底完存		
91	SD06	須恵器	坏B	10.6	4.2	7.4		口2/3 底完存		
92	SD06	須恵器	坏B	10.9	4.3	6.7		口3/4 底完存		
第11図	93	SD06	須恵器	坏B	11.8	3.9	8.5	底部外面墨書「別」 糸切り痕	ほぼ完形	
	94	SD06	須恵器	坏B	12.0	4.9	7.3		口3/4 底完存	
	95	SD06	須恵器	坏B	12.8	6.1	6.2		口1/6	
	96	SD06	須恵器	坏B	16.0	6.6	10.0		口1/4 底わずか	
	97	SD06	須恵器	双子瓶				二孔	体1/5	
	98	SD06	土師器	壺	5.2	3.1		外面赤彩痕	ほぼ完形	
	99	SD06	土師器	埴A	11.9	3.5	5.1		口1/2底 ほぼ完存	
	100	SD06	土師器	埴A	11.8	3.8	4.4	内外面赤彩痕 糸切り痕	口1/2 底完存	

口：口径部 底：底部 体：体部 坏：坏部 罎：脚部

第5表 出土遺物観察表

図版	No.	遺構	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第11図	101	SD06	土師器	碗A	12.1	4.2	5.5	外面煤付着 糸切り痕	□3/8 底完存
	102	SD06	土師器	碗A	17.2	5.9	5.0	体部外面墨書痕 内外面赤彩痕	□1/4 底完存
	103	SD06	土師器	甕	13.8			内外面煤付着	□1/8 体1/6
	104	SD06	土師器	甕	13.8			内面煤付着	□1/5
	105	SD06	土師器	甕	12.6	10.3	7.7		□1/8 底1/2
	106	SD06	土師器	甕	21.4				□1/8
	107	SD06	土師器	甕	24.5			外面煤付着	□1/8
	108	SD06	土師器	甕	33.1			外面煤付着	破片
	109	SD06	土製品	土鍾		5.4			完形
	110	SD06	土製品	土鍾		6.5			完形
第12図					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
	111	SD06	木製品	斎串	13.3	1.5	0.3	スギ	ほぼ完形
	112	SD06	木製品	斎串	9.5	2.2	0.6	スギ	
	113	SD05	木製品	斎串	14.5	2.1	0.3	スギ	完形
	114	SD06	木製品	斎串	14.5	2.2	0.2	スギ	完形
	115	SD06	木製品	斎串	15.4	2.0	0.3	スギ	ほぼ完形
	116	SD06	木製品	斎串	17.0	1.9	0.2	スギ	
	117	SD06	木製品	斎串	16.5	2.1	0.2	スギ	
	118	SD05	木製品	斎串	15.0	2.5	0.3	スギ	
	119	SD05	木製品	斎串	21.1	2.0	0.5	スギ	完形
	120	SD05	木製品	付丸状製品	8.4	1.7	0.3	スギ	墨書なし
	121	SD06	木製品	付丸状製品	13.9	1.2	0.4	スギ	墨書なし
	122	SD06	木製品	付丸状製品	13.6	1.6	0.3	スギ	墨書なし
	123	SD05	木製品	木筒	12.8	3.8	0.7	スギ	「□□」判読不明
	124	SD06	木製品	舟形	15.5	2.2	0.5	スギ	ほぼ完形
125	SD06	木製品	木鍾	11.4	6.5	3.0	クリ	完形	
					口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)		
126	SD06	木製品	盤	16.4	2.4	11.8	ケヤキ	2/3	
127	SD06	木製品	盤	19.8	2.8	15.8	ケヤキ	1/2	
第13図	128	SD06	木製品	柄杓	胴径12.6	5.8	厚さ0.5	スギ/柄・底板 アスナロ；銅板	4/5
	129	SD05	木製品	曲物底板	直径16.0		厚さ0.8	スギ	
	130	SD06	木製品	曲物底板	直径15.0		厚さ0.7	スギ	
	131	SD05	木製品	曲物底板	直径16.8		厚さ1.0	スギ	
	132	SD06	木製品	曲物底板	直径16.2		厚さ0.7	スギ	
	133	SD06	木製品	曲物底板	直径20.2		厚さ1.0	スギ	
	134	SD06	木製品	曲物底板	直径25.4		厚さ0.9	スギ	9/10
第14図					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
	135	SD06	木製品	串状製品	46.9	2.3	0.5	スギ	
	136	SD06	木製品	柄杓の柄	46.1	1.5	0.8	スギ	
	137	SD06	木製品	鳥形状製品	41.7	1.8	1.5	スギ	
	138	SD06	木製品	棒状製品	33.5		1.3	スギ	
	139	SD06	木製品	棒状製品	28.5	1.4	1.1	スギ	
	140	SD06	木製品	板状製品	25.9	4.8	0.7	スギ	
	141	SD05	木製品	火臼状製品	20.7	1.7	1.8	スギ	
	142	SD06	木製品	曲物	胴径30.0	器高12.4	厚さ0.5	スギ	
	143	SD06	木製品	隅丸底板	52.0	20.1	0.8	スギ	

□：口縁部 底：底部 体：体部 坏：坏部 刺：脚部

写真図版

北高木遺跡遠景(南から)





1. 遺構全景(北から)



2. 溝 SD05(北から)

1. 土坑 SK01(東から)



2. 土坑 SK02(南から)



3. 溝 SD05(西から)



4. 溝 SD05(東から)



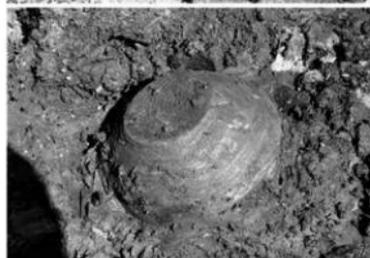
5. 溝 SD06(西から)



6. 溝 SD06(西から)



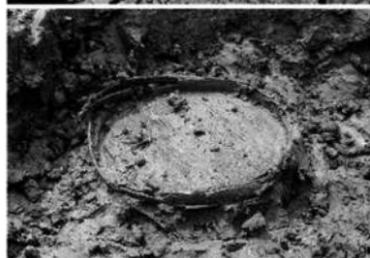
7. 溝 SD05(西から)
遺物出土状況



8. 溝 SD05(西から)
遺物出土状況

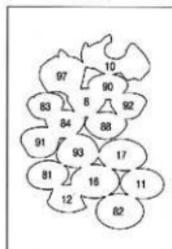


9. 溝 SD06(西から)
遺物出土状況



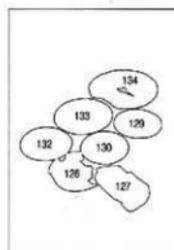
10. 作業風景(東から)

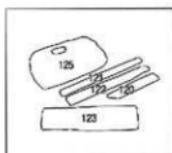




出土遺物
土器：土師器









142



143

報告書抄録

ふりがな	きたたかきいせきはつかつちょうさほうこく							
書名	北高木遺跡発掘調査報告(2)							
副書名	企業団地造成事業に伴う埋蔵文化財調査							
編著者名	田中 明							
編集機関	射水市教育委員会							
所在地	〒933-0292 富山県射水市加茂中部 893 番地 ℡0766-59-8092							
発行年月日	西暦 2007 年 3 月 30 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
きたたかきいせき 北高木遺跡	ひがしほんいみぎし 富山県射水市 北高木	211 (384)	433 (001)	36 度 44 分 32 秒	137 度 04 分 28 秒	平成18年度 20060501~ 20060616	420 m ²	企業団地 造成事業 に伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
北高木遺跡	集落 祭祀	奈良 平安	溝・土坑	須志器 土師器 墨書土器 製塩土器 木製品		平安時代前期の溝 より墨書土器や木 製祭祀具が出土し ている。		

*コード欄の()内の数字は合併前の富山県埋蔵文化財包蔵地地図の遺跡番号を示す。

北高木遺跡発掘調査報告(2)

—企業団地造成事業に伴う埋蔵文化財調査—

2007(平成19)年3月30日 発行

編集・発行 射水市教育委員会

〒933-0292

富山県射水市加茂中部 893 番地

TEL0766-59-8092

印刷 能登印刷株式会社

本報告書はFMスクリーンで印刷されたものです。

